

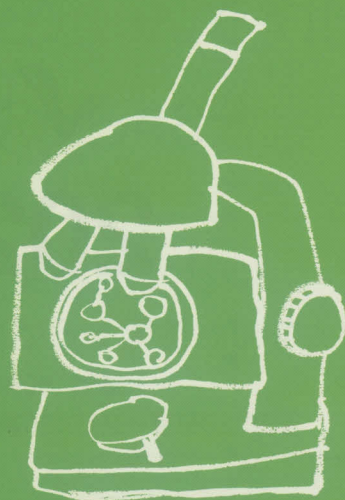


# 2025生命環境学部案内

自然とつくる豊かな未来



生命環境学部は  
山梨大学の4番目の学部として  
2012年に誕生した文理融合型の学部です。  
この学部で、自然との共生可能な豊かな  
地域社会の実現を目指して  
いっしょに学び、いっしょに伝統を  
作っていきましょう。

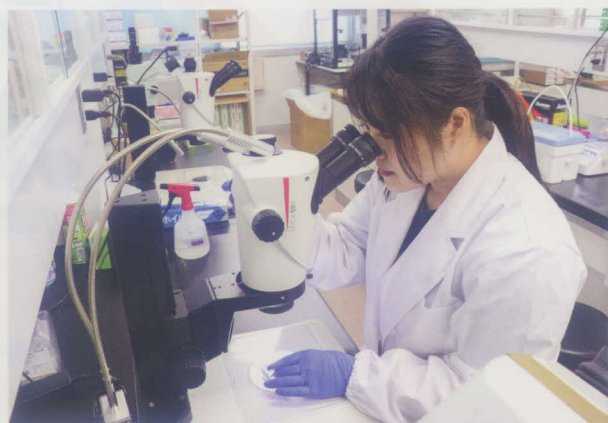


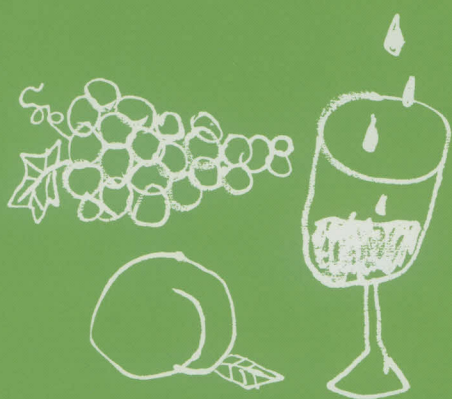
生命工学科  
バイオ・メディカル  
データサイエンス特別コース

Faculty of Life and Environmental Sciences

～自然科学と社会科学を総合的に学べる先進的な学部～

自然との共生可能な豊かな地域社会を  
実現できる人材を育成します。





地域食物科学科  
ワイン科学特別コース



環境科学科



地域社会システム学科  
観光政策科学特別コース

生命環境学部は「持続的な食料の生産と供給による地域社会の繁栄を実現するために必要となる生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関し広い視野を持つ人材を自然と社会の共生科学に基づき養成する」ことを基本理念とし、理系3学科（生命工学科、地域食物科学科、環境科学科）、文系1学科（地域社会システム学科）の4学科で構成される学部です。

山梨大学  
UNIVERSITY OF YAMANASHI

# 生命環境学部



## CONTENTS

生命環境学部での学び	— 3
生命工学科 (40名) <small>(バイオ・メディカルデータサイエンス特別コース)</small>	— 5
地域食物科学科 (37名) <small>(ワイン科学特別コース)</small>	— 7
環境科学科 (30名)	— 9
地域社会システム学科 (48名) <small>(観光政策科学特別コース)</small>	— 11
特別コース	— 13
地域活性化人材育成 ～SPARC～教育プログラム	— 16
大学院 (修士課程・博士課程)	— 17
キャンパスライフ	— 18
関連施設	— 19
在学生からのメッセージ	— 20
その他の情報	— 21



## 生命環境学部での学び!

### 1年次

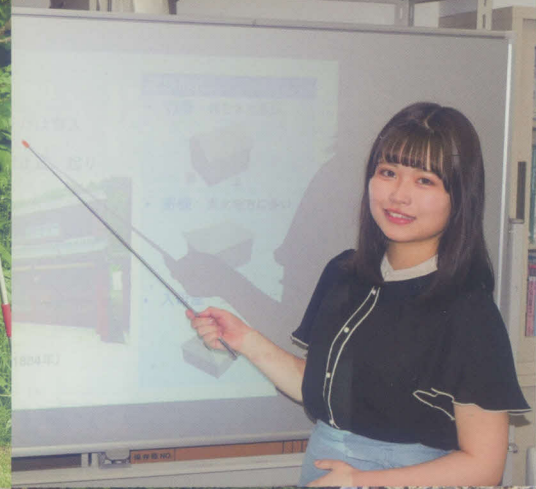
全学共通教育科目  
学部共通科目  
専門基礎科目

### 2年次

専門基礎科目  
専門発展科目

「大学での学び方」を習得するとともに、社会人として必要な幅広い教養や語学、さらに今後ますます重要になるデータサイエンス等を全学共通教育科目で学びます。さらに、生命環境基礎ゼミなどを含む学部共通科目で問題解決能力を身につけます。

全学共通科目に加えて、新たに専門科目を学びはじめます。これらの科目間は「ブリッジ科目」によりスムーズに接続できます。また、地域と連携したフィールドワークなど実験・実習系の科目を通じて実践的知識と経験を深めていきます。



# 3年次

専門発展科目

生命・食・環境・経営などの専門知識を深く学びます。さらに広範で複合的な問題へチャレンジする意欲の高い学生のために、他の学科の一部専門科目を履修できる相互乗り入れ制度を設定し、当該科目を履修することで、より幅の広い専門性を獲得します。

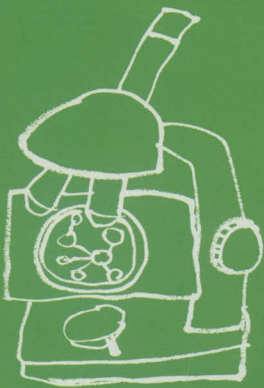
# 4年次

専門特別科目

専門特別科目の卒業研究では実践的専門職業人として必要な高度な問題解決能力を身につけます。また、特別講義などを履修し、大学院へ向けた専門知識についても深く学びます。

# 生命工学科 (入学定員 40名)

(バイオ・メディカルデータサイエンス特別コース)



## 生命の仕組みを解き明かす 最先端バイオ技術を学ぶ!

最先端のバイオサイエンスを基盤に  
高い創造力をもって未来のバイオ産業を  
担うことのできる人材を養成します。

※最新の情報は、生命工学科HPをご確認ください。

### カリキュラムの構成 進路を見据えて学ぶ

### 生命工学科、バイオ・メディカルデータサイエンス特別コースにおける学び

#### 実験実習を重視した実践的教育体制

#### ■生命工学の基礎知識・技術をしっかり学ぶ。

生物学概論、生命研究倫理学、基礎生化学、基礎微生物学、基礎有機化学、生命統計情報学、創薬概論 など

#### ■バイオサイエンス、バイオテクノロジーを深く学ぶ。

◎バイオモデル、微生物・食品衛生モデル、バイオ・メディカルデータサイエンスモデル(下図参照)等の  
授業科目を履修することで、各分野の最先端の知識を身につける

◎化学・生化学・微生物学・分子生物学・細胞生物学・発生工学の各実験を通じて実験スキルを修得する

興味と関心	得られる知識・スキル・主な開講科目	進路・就職先	
<b>バイオモデル</b> ●医療産業・食品分野で活躍する技術者 ●バイオテクノロジー	●細胞、遺伝子、発生の知識と応用 ●食と健康に関する知識 ●生殖補助医療に関する知識	【分子発生・幹細胞生物学】 【分子生物学】 【発生工学】 【細胞生理学】 【生物化学工学】	医療関連産業 公務員等 製薬産業 大学院進学 食品産業
<b>微生物・食品衛生モデル</b> ●発酵産業・食品分野で活躍する技術者 ●バイオテクノロジー	●微生物と食、バイオプロセスに関する知識と技術 ●食品衛生に関する知識 ●細胞、遺伝子の知識と応用	【応用微生物学】 【生物化学工学】 【分子生物学】 【食品加工学】 【食品衛生学】 【発酵工業学】	発酵産業 公務員等 食品産業 大学院進学 製薬産業
<b>バイオ・メディカルデータサイエンスモデル</b> ●データサイエンスのスキルを生かして医薬分野で活躍する技術者 ●医学・薬学	●データサイエンスに関するスキル ●医学・薬学に関する知識 ●細胞、遺伝子、発生の知識と応用 ●生殖補助医療に関する知識	【生命工学データサイエンス】 【大規模生命情報解析学】 【基礎薬理学】 【基礎免疫学】 【分子生物学】	医療関連産業 公務員等 製薬産業 大学院進学 情報産業

#### ■有用物質生産、食品、医学・製薬などの分野の技術者、研究者になる。

◎食品系製造業(食料、飲料、醸造等) ◎化学系製造業(医薬、化粧品、香料など)

◎医療系産業(機器、分析など) ◎不妊治療施設・クリニック(胚培養士など) ◎環境産業(廃水処理、環境分析)

◎農業関係法人(JAなど) ◎学術・研究機関 ◎地方公務員 ◎国家公務員

### Check Point !!

■約半数の学生がバイオ・メディカルデータサイエンス特別コースに進み(2022年度設置、特集:本誌13ページ)、生命科学・医学・薬学分野における数理・データサイエンス教育を履修します。

■4年次には、動物発生・生殖工学分野、微生物機能・生態応用工学分野、ナノバイオ・医薬工学分野の各研究室(次ページ参照)に所属し、学部の集大成として卒論研究に取り組みます。発生工学研究センターや高度生殖補助技術センター(2022年開所)と連携して研究に取り組むこともできます。

■指定単位の修得により、卒業時に食品衛生管理者および食品衛生監視員の任用資格が得られます。

■本学科につづく大学院(修士課程および博士課程)が設置されています。毎年卒業生の約7割は修士課程へ進学し、より高度な研究に携わっています。



生命環境学部

生命工学科  
ホームページ



専門科目名などの  
詳細は学科HPで。

<https://www.bt.yamanashi.ac.jp>



専門科目名などの詳細は学科ホームページで。https://www.bt.yamanashi.ac.jp

生命工学科では、分子生物学、生化学、細胞生理学といった生命科学の基礎を学びます。そして哺乳類の発生やバイオインフォマティクス、応用微生物学、蛋白質構造生物学、ナノバイオおよび医薬工学に関する最先端のバイオテクノロジーを習得することで、生殖補助医療や医薬品開発、動物産業、食品生産・衛生、健康増進、バイオエネルギー、環境保全などに関する新しい技術を創出する能力を身につけた、次世代のバイオ産業を担う人材を養成します。

## ■研究室紹介

### ★動物発生・生殖工学分野

### ★微生物機能・生態応用工学分野

### ★ナノバイオ・医薬工学分野

### ★発生工学研究室

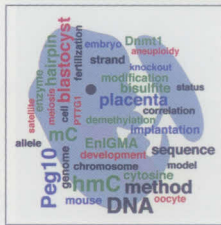
教授／若山 照彦 准教授／若山 清香 助教／伊藤 大裕  
マイクロマニピュレーターによる顕微授精技術やクローン動物の作出は、再生医療や農業、さらには宇宙時代の生活を大きく変える可能性を秘めています。これらの技術は発生工学と呼ばれるもので、私たちはこの技術を駆使して従来不可能だった実験に取り組むと同時に、エキスパートの養成を目指しています。



### ★発生ゲノム科学研究室

教授／幸田 尚 助教／志浦 寛相

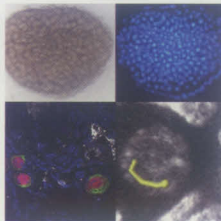
初期発生における遺伝子発現の制御、胎盤形成の機構の解明など、人を含めた哺乳類の初期胚発生に重要な過程を分子生物学的なアプローチで研究を行っています。また、次世代シーケンサーを使った単一細胞の遺伝子発現解析やゲノム解析のための新規技術の開発も同時に行なっています。



### ★生殖細胞発生研究室

教授／永松 剛

生殖細胞は世代を超えて種の永続性を支える細胞で、特に卵子は胚発生能を担っています。私たちは卵子の発生過程をたどっていくことで、卵子の機能を保持するメカニズムの解明を目指しています。そして加齢によって低下する卵子の機能を補完する方法の開発に向けて研究しています。



### ★応用微生物学研究室①

教授／山村 英樹 助教／小久保 晋

抗菌・抗がん剤などの医薬品原料を生産する放線菌を日本各地・世界から探索しています。得られた放線菌は、ゲノム解析や新種提案、抗生物質の同定、植物栽培への応用研究を行っています。医薬・食品業界で必要とされる微生物の取り扱い技術や遺伝子解析、抗菌活性試験などの技術を身につけられます。



### ★応用微生物学研究室②

准教授／中川 洋史

有用微生物である酵母は発酵食品や医薬品、化粧品などの製造など幅広い産業に用いられ、さらに真核生物のモデル生物としても重要です。一方で、産業界では微生物の機能向上が課題となっています。私達は酵母を用いて、微生物の機能を高めるための新しい育種技術の開発や、ストレス耐性を強化するための研究に取り組んでいます。



### ★微生物利用工学研究室

准教授／大槻 隆司

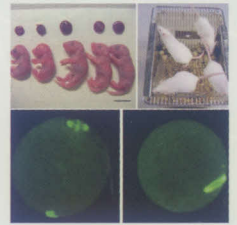
バイオの世紀と呼ばれる現在、人類が地球環境と共存して発展するにはバイオ技術が必要です。私達は生物の未知の能力を発掘し、その機能をタンパク質や遺伝子のレベルで解明し、バイオマス活用技術へ応用することで未来を豊かにする研究を行っています。



### ★胚環境研究室

教授／岸上 哲士 助教／大貫 喜嗣

胚の発生は、卵子の老化や培養環境、また「核の質」などの要因により大きな影響を受けます。また胚や胎児の環境が個体の遺伝子発現や性質にまで影響することも明らかになりつつあります。私達は、哺乳類の個体発生や個体の性質に影響を及ぼす胚の仕組みを明らかにする研究を行っています。



### ★器官形成ダイナミクス研究室

教授／鈴木 聖太郎

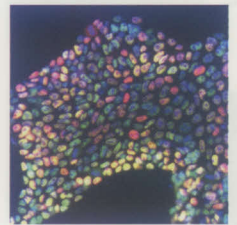
私達は、ライブイメージングや遺伝子改変マウスなど発生生物学的アプローチを軸に、器官形成および性差が形成される仕組みの解明を目指しています。さらに性を考慮した個別化医療に向け、組織、器官レベルでの性差を可視化できる研究モデルの開発を行なっています。



### ★細胞ポテンシャル研究室

准教授／石内 崇士

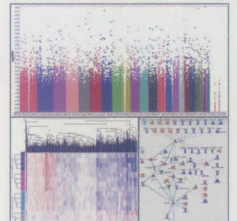
多能性を持つES細胞やiPS細胞に対し、受精卵は全能性を持つと理解されています。しかしながら全能性を分子レベルで理解することはできていません。私たちは独自の技術を開発しつつ細胞ポテンシャルの制御の仕組みを明らかにする研究を行っています。



### ★疾患ゲノム研究室

准教授／笠井 慎也

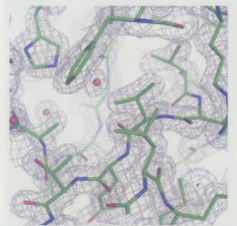
ヒトゲノムの完全解読が報告され、個人間での塩基配列の違いも特定されています。しかし、こういった遺伝子の違いが疾患発症にどのように関わっているか明らかになっていません。当研究室では、主に依存症や自閉症など精神疾患における原因遺伝子の特定や、その基盤にある遺伝子メカニズムの解析を行い、治療薬の開発を目指しています。



### ★蛋白質構造生物学的研究室

教授／大山 拓次

タンパク質は生物の主要成分の一つであり、酵素や物質輸送、シグナル伝達など、生物の多彩な機能を実現する魅力的な分子です。私達はタンパク質の複雑な立体構造をX線結晶構造解析法を使って決定し、生物の仕組みを理解する研究を行っています。



### ★ナノバイオテクノロジー研究室

准教授／新森 英之

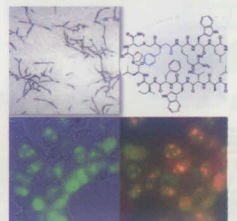
近年、生体の機能に倣った科学はナノバイオテクノロジーという新分野へ発展しています。そこで我々は、生体機能を利用した新規な機能性材料・薬剤の開発を目指しています。具体的には、多彩な物質工場である生物をミクロな科学的視点で解き明かし、人に役立つ医薬品やバイオセンサー、バイオマシン、生体適合材料等の開発研究を行っています。



### ★医薬分子工学研究室

助教／川上 隆史

私達は独自のケミカルバイオロジー技術を用いて、ガン、自己免疫疾患、動脈硬化症、アレルギー性疾患、アルツハイマー病、糖尿病、コロナウイルス肺炎などの様々な病気に対する新規ペプチド医薬品(分子標的治療薬)を開発する研究を行っています。また、それらの医薬品を発見するための新しいケミカルバイオロジー技術を開発する研究を行っています。



※BMDSコースの学生は、4年次への進級時に、医学部医学科の研究室への配属を選択できます。(5名程度/年、R5年度現在 詳しくは13ページを参照)

# 地域食物科学科 (入学定員 37名)

(ワイン科学特別コース)



## 人類の生存に欠くことのできない 食物について学ぶ!

地域性に富むワイン科学特別コースを学科内に設置。

### カリキュラムの構成 進路を見据えて学ぶ

#### 地域食物科学科・ワイン科学特別コースにおける学び

基礎から応用、そして実践に繋がる新しいカリキュラム

#### ■食物の基礎知識・技術をしっかり学ぶ。

◎果樹、農作物の栽培 ◎微生物学 ◎食品製造学 ◎生物学 ◎栄養学

#### ■食物科学を深く学ぶ。

◎農産物の生産 ◎食品製造の科学  
◎食品微生物の分子生物学的解析と利用  
◎食品成分の栄養学と有用成分の利用

#### ■ワインの科学を深く学ぶ。

(ワイン科学特別コース)

◎ブドウ栽培、ワイン製造の技術  
◎ワインの成分の分析と利用

#### ■食物科学や農学の知識・技術を食料問題の解決に活かす人材になる。

◎食品産業、醸造産業 ◎製薬産業 ◎ワイン産業 ◎果樹栽培業  
◎食品加工産業 ◎農業生産関連産業 ◎大学院 ◎国家・地方公務員



### Check Point !!

■人類は有史以来、食品を作り続けてきました。かつてないスピードで進む環境破壊、そして人口増加、食物を取り巻く状況は大きく変化しています。地域食物科学科では、先端的な科学的手法を駆使した果樹や野菜の生産やワイン製造などの加工を実践し、食料問題の解決や食物の利用性と機能性を高める教育を行います。

■教育モデルとして「ワイン科学特別コース」を設置し、ブドウ栽培・ワイン製造を専門に研究する「ワイン科学研究センター」の歴史と実績を活かして、専門的なワイン製造技術を教育しワイン製造業界で活躍できる人材を養成します。

生命環境学部

地域食物科学科  
ホームページ



専門科目名などの  
詳細は学科HPで。

<https://www.fp.yamanashi.ac.jp>





地域食物科学科は、食物（食品製造、食品栄養、園芸）およびワイン製造に関する知識・技術（微生物、機能成分、果実遺伝子）を学べる新しい学科です。バイオテクノロジーを駆使した果樹や野菜等の農産物の栽培、食品製造の科学的理解、栄養・有用成分の解析と利用、ワイン製造技術等を課題に、食物生産から食品製造までのプロセスを包括的に学びます。

## ■研究室紹介

地域食物科学科では、3年次後期に研究室に配属され、食物やワインに関する卒業論文研究に取り組みます。下記の6つの研究室があります。園芸学、食品製造学、食品栄養学、果実遺伝子工学、機能成分学、発酵微生物工学について研究を行います。

### 安心して食べられる野菜や果物の安定生産を目指して

#### ★園芸学研究部門

教授／村松 昇 准教授／片岡 良太

当研究室では、安全な食物を安定的に供給するシステムの構築を目指し、農産物の効率的な品質評価法の開発や、植物工場の利用、これまで生産が少なかった果樹・野菜の栽培など、最新技術を用いた新たな農業に向けた研究に取り組んでいます。また持続可能な食糧生産を行うには?という大問に対して、微生物や植物の力を活用した土づくりから解決できないかと日々研究を行っています。



### 食品製造を科学的に理解し、実践するフロンティア

#### ★食品製造学研究部門

准教授／三木 健夫

酵母の遺伝子に関する研究を行っています。発酵食飲料製造に欠かせない「酵母」の性質は、遺伝子の相互作用によって生じています。遺伝子を構成するDNA配列を多面的に解析し、様々な情報を得ることにより「酵母」の持つ高次機能についての研究（高浸透耐性、アミノ酸資化性、細胞外タンパク質機能等）を行っています。

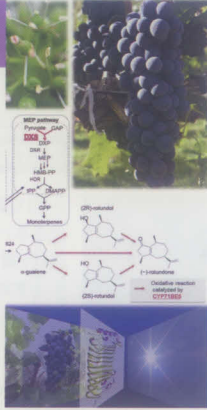


### 美味しいブドウをつくり、新しい栽培法を研究する

#### ★果実遺伝子工学研究部門

教授／鈴木 俊二 助教／榎 真一・青木 是直

果実遺伝子工学研究部門では、「果実品質の向上・栽培の省力化」をキーワードに、基礎および応用研究を行っています。ブドウのゲノムから有用な遺伝子を解析することで、特徴的な香りをもち、着色性に優れ、高品質かつ病気に強い理想的なブドウの作出を目指しています。また、病気の遺伝子診断や微生物を活用したブドウを病気から守る研究も行っています。



### 栄養素の健康維持に対する役割を研究し、地域に貢献する

#### ★食品栄養学研究部門

教授／望月 和樹 助教／石山 詩織

近年、栄養素に区分されない食事因子（食物繊維や、抗酸化食品成分など）も私たちの体にとって大切な役割を担っていることがわかってきました。食品栄養学研究部門では、食生活と密接に関連している疾患（生活習慣病やアレルギー疾患）の予防を目標に、栄養素および食事因子の役割を探求することを目標に研究を行っています。



### ワインの「おいしさ」を科学する

#### ★機能成分学研究部門

准教授／久本 雅嗣 助教／斉藤 史恵

ワインの「おいしさ」は「色」「香り」「味」が三位一体となってつくりだしています。私達は、様々な機器分析を駆使し「色」「香り」「味」に関わる成分の化学構造や性質、生成する要因の科学的解明に取り組んでいます。さらに、五感を使った官能評価により、おいしさを感じるメカニズムの解明にも取り組んでいます。



### 発酵を科学し、豊かな食生活に貢献する

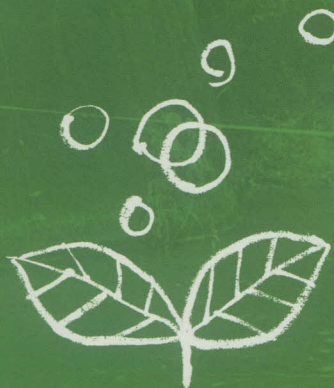
#### ★発酵微生物工学研究部門

教授／柳田 藤寿・乙黒 美彩 准教授／岸本 宗和

我々はワイン醸造環境（ブドウ園、ワイナリー）や自然界（湖、花）から酵母や乳酸菌などの有用微生物を探索し、香气成分や代謝産物など微生物の持つ未知の能力を解明することで、ワインや発酵乳飲料など個性豊かな発酵食品の開発を目指し研究を行っています。



# 環境科学科 (入学定員 30名)



## 豊かな自然環境を次世代に残すための知識と技術を学ぶ!

人類の生存基盤である地球環境の理解を通じ、自然と共生した持続可能な社会の形成に貢献できる人材を養成します。

### カリキュラムの構成 進路を見据えて学ぶ

#### 環境科学科における学び

環境科学科には、しっかりとした理系教養の基礎を身につけて自然の仕組みを解き明かし、次世代に豊かな環境を残していくために必要な専門的な知識・技術を得るカリキュラムが用意されています。

#### ■環境科学に関わる理系教養の基礎をしっかり学ぶ。

- ◎共生科学入門 ◎生命環境基礎ゼミ ◎環境科学概論 ◎基礎数学 ◎基礎物理学
- ◎基礎環境化学 ◎生物学概論 ◎生物資源論 ◎生物資源実習 ◎環境科学基礎実験など



#### ■環境科学に関わる専門的な知識を得る。

- ◎大気環境科学 ◎生物多様性科学 ◎森林環境学
- ◎水圏科学 ◎環境毒性科学 ◎自然保護学 など

#### ■環境科学に関わる専門的な技術を習得する。

- ◎河川実習 ◎大気科学実習 ◎土壌学実習
- ◎環境生物学実習 ◎環境データ解析実習 など



#### ■環境科学に関わる専門的な知識・技術をもち、環境問題の解決に活かす人材になる。

- ◎環境コンサルタント業や環境分析業等の環境産業、自治体や各種公共団体に就職
- ◎専門性を高めるために大学院へ進学(卒業生の約3割が大学院に進学)



### Check Point !!

■環境問題の背景と概要に関する「基礎知識」や大気・水・土壌・生物と人間との関わりに関する「専門知識」を学ぶとともに、人間活動の影響を評価するための「環境計測技術」や環境管理・修復に不可欠な「環境保全技術」を身につけるためのカリキュラムを用意しています。これら専門科目の深い学びを通じて、自然科学の知識と技法に基づく問題解決能力を培います。さらに、「アクティブラーニング」を積極的に取り入れることにより、主体的に考える力と他者との対話や合意形成のための素養を身につけます。これによって環境に関わる学問的課題や社会的課題を自ら見出し、多様な人々と協働しながら課題解決に取り組むことができる環境人材を養成します。

生命環境学部  
環境科学科  
ホームページ



詳細は学科HPで。

<https://www.ev.yamanashi.ac.jp>





教育・研究指導を担当する教員は「環境科学」に係る幅広い分野のエキスパートにより構成されており、その研究成果は国内はもちろんのこと、国際的にも高く評価されています。各教員の研究テーマは以下の通りです。

## 環境科学科の研究テーマ



### 大自然に潜む「カタチ」の不思議

動植物や大自然の景観が私たちに魅せる美しい「カタチ」を科学的に調べています。その不思議な形成メカニズムを解明することで、大自然に横たわる新しい科学法則の発掘を目指しています。



教授／島 弘幸



### 大気中微量化学成分の動態と環境への影響

微量化学成分の大気環境中の動態についてフィールドでの観測に基づく研究を行い、これらの成分が気象や気候、生態系に与える影響の解明を目指しています。



教授／松本 潔



### 衛星観測・数値モデルによる河川流量測定

数値モデルや衛星観測技術を用いて、世界の様々な地域における河川流量を推定・予測する方法の開発に取り組んでいます。



教授／石平 博



### 大気と海洋環境を対象とした光学観測

海の汚れや気候に影響を与える微粒子の量や性質を宇宙から調べる(リモートセンシングといいます)ための基礎的な研究を行っています。



准教授／小林 拓



### 流域の物質循環と健康・生活

森林・農地・都市の水と栄養のバランス、地下水の涵養と汚染の仕組み、感染症、水や農業と福祉・経済の関係について、山梨・アジア・アフリカ・欧州の各地で調査と研究を行なっています。



教授／西田 継



### 流域～全球スケールの水循環

衛星・地理情報と数値モデルを駆使して、水循環と社会の関係性について、流域スケールと全球スケールの2つの視点から研究を行っています。



准教授／馬籠 純



### 流域生態系における食物網の構造と動態

陸－河川－海洋間の物質フローの経路とダイナミクスを調べることで、流域における生物群集の維持機構を明らかにしていきます。



教授／岩田 智也



### 環境微生物を利用した水処理技術

微生物の力を用いた排水・上水処理技術を研究・開発し、環境に配慮しながら私たち人間が健康で安心・安全な生活を維持できる社会の構築を目指しています。



助教／亀井 樹



### 植物に対する環境ストレスの影響

大気汚染や気候変動が植物に及ぼす悪影響の解明とその対策に取り組み、食料生産や温暖化防止などの植物が有する有益な機能の維持・発揮を目指しています。



准教授／黄瀬 佳之



### 新しい微生物資源の開拓と利用

培養が難しい未知微生物の分離培養を可能とする技術の開発、取得した未知微生物を用いた環境保全や浄化、有用物質生産等に関する研究を行っています。



准教授／田中 靖浩



### 森林生態系における物質循環

樹木はどのように効率よく土壌から栄養を獲得しているのでしょうか。様々な森林を比較しながら、直接は見えない地下部に着目し、土壌と樹木の相互作用の観点からその戦略に迫ります。



助教／向井 真那



### 土壌生態系における化学物質動態

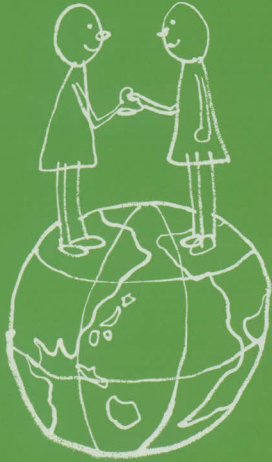
人の経済活動や農業生産と環境保全の両立を目指して、土壌生態系での化学物質汚染の実態やその影響を解明する研究をしています。



准教授／後藤 裕子

# 地域社会システム学科 (入学定員 48名)

(観光政策科学特別コース)



## マネジメント・プロフェッショナルになる!

文理融合の生命環境学部の中にある「オンリーワン」の文系学科。  
経済、経営、法律、政治、政策、地域計画、数理分析について深く学び  
地域を「マネジメント」する能力を身につけ、  
自然と社会の共生に基づく「持続可能な発展」に貢献する人材を目指します。

### カリキュラムの構成 進路を見据えて学ぶ

### 地域社会システム学科・観光政策科学特別コースにおける学び

社会科学の総合的な知識と数理分析スキルを身につける

#### ■地域社会システムの様々な構成要素と地域発展に関する基礎知識をしっかりと学ぶ。

- ◎経済学、経営学、法学、行政学、政治学など社会科学の基礎科目
- ◎統計学、基礎数学など、計量的分析方法の基礎科目
- ◎共生科学、生命科学、生物資源、環境科学など、自然との共生に関する科目

#### ■経済学、経営学を深く学ぶ。

- ◎経済学の理論と経済現象の分析方法
- ◎経営学の理論と企業経営の分析方法

#### ■法学、政治学を深く学ぶ。

- ◎基本的な法律知識と法学的な分析方法
- ◎政治学や行政学の理論と政策過程の分析方法

#### ■地域計画、数理分析スキルを深く学ぶ。

- ◎地域計画の理論、方法、関連計画や政策
- ◎統計学や経済数学など、計量的な分析方法と管理方法

#### ■観光経営・観光政策を学ぶ。

- ◎観光経営・観光マーケティング・観光行政・観光政策の理論と手法
- ◎観光資源を活かした地域づくりなど

#### ■民間企業や行政機関などで地域社会をマネジメントできる人材になる。

- ◎国家公務員 ◎地方公務員 ◎一般企業(製造業、金融業、サービス業、観光産業、ITなど)
- ◎シンクタンク ◎起業家 ◎NGO・NPO ◎大学院進学など



### Check Point !!

■地域社会システム学科で、学生は、地域社会のマネジメントに関する専門知識やスキルを体系的に修得するとともに、地域に対する知識とグローバルな知識を両立させながら、幅広い視野から社会を「マネジメント」する能力を身につけます。

■また、観光政策科学特別コースに所属する学生は、地域社会システム学科の専門科目に加え、観光資源の保全・活用、観光ビジネス・経営、観光政策、観光データ解析等の専門知識や分析・立案スキルを修得できます。

■卒業後の進路として、民間企業・官公庁・公益法人・各種団体・大学院進学など、幅広いものが期待できます。

生命環境学部

地域社会システム学科  
ホームページ



専門科目名などの  
詳細は学科HPで。

<https://www.ss.yamanashi.ac.jp>



地域社会システム学科は、生命・食・環境の基礎を理解し、経済、経営、政治、行政、法律、数理、観光などの専門知識を学び、人類が直面している食料問題や環境問題を社会・経済・行政システムとの関わりにおいて理解し、その諸問題に立ち向かい、地域社会の繁栄の実現に貢献できる人材を養成します。

## 履修可能な科目群



### 【経済】社会科学入門、財政学

准教授／門野 圭司

政府の経済活動を研究対象とする財政学の学習を通じて、経済的に不遇な人たちの言い分にご共感できる心と、経済の実態を科学的に理解する頭脳と、両方を身につけることの大切さを掴み取ってもらえればと思います。

### 【経済】マクロ経済学、食料問題とグローバル経済

教授／渡邊 幹彦

マクロ経済学では、国全体が豊かであり続けるための経済政策について学びます。食料問題とグローバル経済では、この経済政策をグローバル社会の進展にどのように対応させるのが良いかについて学びます。

### 【経済】公共経済学

教授／渡邊 靖仁

ミクロ経済学の理論を用い、市場の失敗・政府の失敗の発生理由と対策を分析し、効率と公平・貢献原則と平等原則などのトレードオフ関係について認識を深め、経済社会を公・共・私の3視点から把握する力を涵養します。

### 【経営】経営戦略論、経営組織論

准教授／佐々木 博之

良いマネジメント(経営)ができれば、顧客や従業員、投資家などの利害関係者に十分な価値を提供でき、企業は存続・発展します。そのための戦略と組織づくりについて、最新の研究成果と企業事例から学びましょう。

### 【経営】経営学概論

准教授／井上 智紀

経営学は、企業など組織の外部環境(市場)への適応と、組織内部の構成員(サブ組織・人)間の良好な関係の構築に必要な条件について考えるものです。概論では基礎的な理論について実際の事例を通じて学びます。

### 【法律】日本国憲法、統治機構論

教授／石塚 迅

法学分野の科目の中で、主に憲法に関連する科目を担当しています。私たちが享有する人権にはどのようなものがあり、それを保障するための統治のシステムはどのようなものであるべきかについて考えます。

## 経済 経営 法律 政治

### 【法律】民法学I・II

教授／福田 和也

社会生活上しばしば接することとなる民法を中心に講義を行っています。主として知識の習得になりますが、民法学における思考方法も適宜紹介したいと考えています。

### 【法律】行政法I・II

助教／若生 直志

行政活動が社会の様々な領域に及んでいくにつれ、その法的コントロールの必要性も高まっていきます。国民の権利を保護すると同時に、社会を発展させていくための法制度について考えます。

### 【政治】政治学概論、環境政治論

准教授／金 基成

政治思想・政治体制・政治システム・民主主義・社会運動・市民参加など、政治学の基礎知識と考え方を習得するとともに、生態学的に持続可能な社会のあり方と政治過程上の諸課題について討論します。

### 【政治】国際関係論I・II

准教授／小松 志朗

国際関係論を基礎から学んで、世界の構造や歴史、具体的な諸問題について理解を深めます。地域社会のことを考える時にも、グローバルな視点から世界とのつながりを意識できるようになってもらえればと思います。

### 【政治】行政学、地方自治論

准教授／藤原 真史

政治学の一分野である行政学、地方自治論では、国や地方自治体のさまざまな活動を支える行政資源(ヒト、モノ、カネ、情報等)やそれらを活用して産み出される政策について、理論や歴史、現状、課題等を学びます。

### 【政策】環境経済政策論I・II

准教授／喜多川 進

日本のみならず海外の具体的な環境政策の事例を通して、環境政策の推進・阻害要因および環境問題解決のための望ましい政策のあり方を学びます。

### 【計画】地域計画学、地域共生デザイン

教授／大山 勲

都市や農村地域の計画、景観・環境・観光などの個別計画、商業・交通・集落空間などのデザイン、法定計画の限界、市民行政協働まちづくりの実践など、地域の持続と活性化を進めるための計画づくりの基礎を学びます。

## 政策 計画 数理 観光

### 【計画】エネルギーマネジメント、数理計画法

准教授／島崎 洋一

地域社会における望ましいエネルギーの使い方について学習します。行政や企業におけるエネルギーの導入計画、経営管理を主題とします。身近な例として、家庭の電力測定演習を行います。意思決定の手法を理解します。

### 【計画】経済地理学

准教授／宮川 雅至

地域の社会経済現象を場所・空間に着目して客観的に分析し、問題解決につなげるための立地モデルを学びます。土地利用、施設配置、商業立地などを対象に、モデルを実際の地域に適用することを目指します。

### 【数理】経済・経営数学、社会数理システム

教授／伊藤 一帆

世の中で起きている現象を数式を用いて表現することを数理モデリングといいます。そして、その数式を分析することにより、複雑な現実の本質が見えてきます。経済現象を中心に、この一連のプロセスを修得しましょう。

### 【数理】基礎統計学、基礎統計学演習

准教授／平井 寛

あなたが仕事やその他の場で何か新しい提案をしようとするとき、その提案に説得力を持たせるにはどうしたら良いでしょうか。統計学は実際に起きた結果のデータに基づいた根拠を示すことができる有力なツールです。

### 【観光】観光政策論、観光資源保全・活用論

准教授／菊地 淑人

観光政策・計画という観点から、観光資源を活かした地域づくりを学びます。また、世界遺産をはじめとした文化・自然遺産の価値評価やマネジメントを学ぶことで、地域資源を守り、観光等に活かす方策を身につけます。

### 【観光】観光経営論I・II

教授／田中 敦

訪日観光客の急増など変化が著しい観光について、地域とグローバルの双方の視点から幅広いテーマを取扱います。また観光経営等の学修を通じて、マーケティングや企業経営の基礎知識を実践的に習得していきます。

※[2024年4月現在]

今後、退職等で見直しになる可能性があります

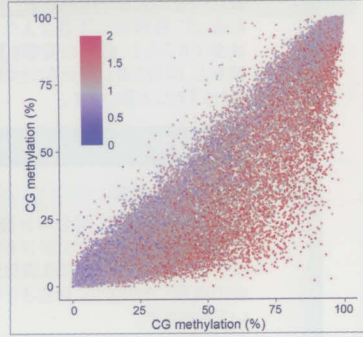
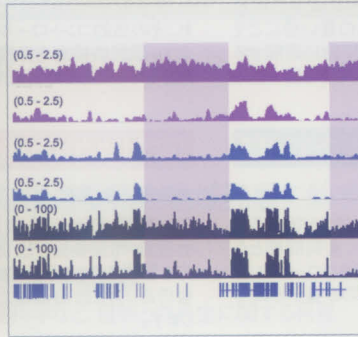
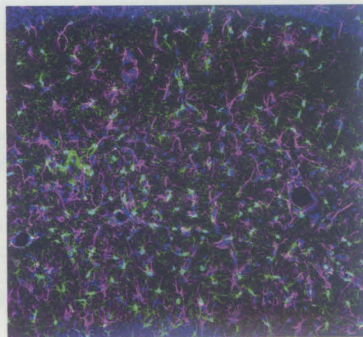
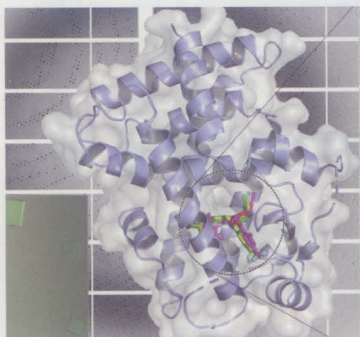
# 特別コース

## 生命工学科 バイオ・メディカルデータサイエンス特別コース

[活躍できる分野・進路] 創薬系企業・情報産業・CRO系産業・基礎医学研究者・公務員など

### 医学・薬学の基礎知識をもち データサイエンスのスキルを身に付けた 生命科学系専門職業人を養成

「バイオ・メディカルデータサイエンス特別コース」(BMDSコース)は、生命工学科に2022年4月に新しく設置されたコースです。医学・薬学の基礎知識をもち、データサイエンスのスキルを身に付けた生命科学系専門職業人の養成を目的として、生命科学・医学・薬学分野における数理・データサイエンス教育を行います。



### 生命工学科本科との区分について

入試では、生命工学科本科とBMDSコースを区別せず一括で募集し、生命工学科本科を受験していただきます。

BMDSコースへの配属(クラス分け)は、1年次の希望や成績等に基づいて、2年次への進級時に決定します\*1。なお、一般選抜(前期)、一般選抜(後期)、学校推薦型選抜I、私費外国人留学生入試のいずれの入試で入学された場合でも、BMDSコースへの配属対象となります。

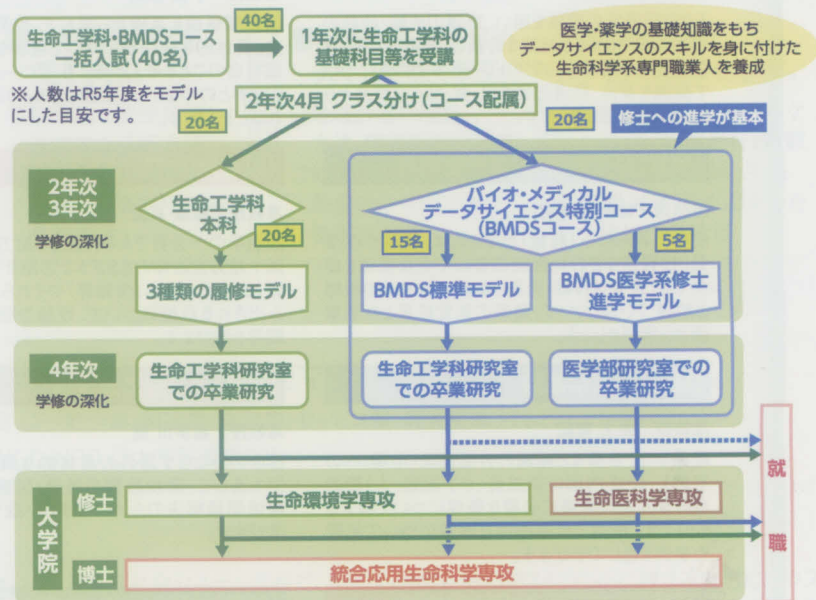
### BMDSコース配属の特色

【1年次】理系教養の基礎を学びます。

【2・3年次】BMDSコースのみで開講されるデータサイエンスに関する専門発展科目の履修が可能になります(例:生命工学データサイエンス、2年次)。

【4年次】BMDSコースのうち一部の学生は、卒業研究を行う配属先の研究室に医学部の特定の研究室を選択することができ\*2、より医療分野に習熟できることが期待されます。医学部研究室では、アレルギー、脳・眼疾患とグリア、シナプス可塑性、脳情報動態、高次脳機能など\*3に関する卒業研究を行うことができます。

\*1: コースの定員や配属方法は、年度によって異なる場合があります。  
\*2: 生命環境学部生命工学科の学生として卒業研究を行います。  
\*3: 配属の対象となる研究室は年度ごとに変更になる場合があります。



BMDSコースの最新情報につきましては、生命工学科のHPをご確認ください。

## 地域食物科学科 ワイン科学特別コース

[活躍できる分野・進路] 食品産業・ワイン産業など

### 地域産業が抱える課題に対応できる 食品科学のエキスパートを育成

「ワイン科学特別コース」では、ワイン製造モデルとして食品製造に熱意をもった技術者・研究者を育成します。ブドウ栽培・ワイン製造専門の研究機関であるワイン科学研究センターの歴史と実績を活かし、ワイン製造における現象を科学的に理解するとともに、実習を通じて実践的な専門技術を学ぶことができます。



#### ■ ワイン科学特別コースの講義

1年次からブドウ・ワインに関する授業を受講し、ワイン科学に関する最先端の知識と技術を学びます。さらに、「ブドウ栽培学実習」「ワイン製造科学実習」の実習科目や、山梨県内のワイナリーでブドウ栽培やワイン製造の現場を体験する「インターンシップ」などを通じて、食吊の原料生産から加工までの実践力を養成します。

#### ■ ピックアップ講義 ブドウ栽培学実習

気象、形態、植物生理、園芸農、土壌肥料および植物病理学など様々な観点からその関連性と作業の意義について学びます。



#### ■ ピックアップ講義 ワイン製造科学実習

原料ブドウからワインを製造することで山梨県の重要な地場産業であるワイン製造の意義を理解します。ワインへの理解を深めるためワイナリー訪問も実施しています。



学部	地域食物科学科
地域食物科学科・本科	ワイン科学特別コース
1～3年次 共通カリキュラムの受講	
+	
特別コース向け講義	
4年次 卒業研究・卒業論文執筆	
ワイン科学特別コースはワイン科学研究センター研究部門に配属・卒業研究着手	

大学院	生命環境学専攻
食物・ワイン科学コース	
◆資格【山梨大学ワイン科学士】	
ワイン科学における高度な専門的知識を持つ技術者を認定するもの。指定の科目単位を取得した者は、ワイン科学士認定試験の受験資格が得られます。	

ワイン科学特別コース向け講義	1年次	ワイン科学
	2年次	ワイン微生物学
		ワイン醸造学
	3年次	ワイン分析学
		ブドウ栽培学
		ワイン品質評価学
		ブドウ栽培学実習
		ワイン製造科学実習

# 特別コース

## 地域社会システム学科 観光政策科学特別コース

[活躍できる分野・進路] 観光関連産業・公務員など

### 観光がうみだす新しい価値の探求

観光産業や観光地域づくりの「現場」における学びを重視した教育プログラムを通じて、観光地経営(マネジメント)に関する地域志向型教育を実践し、観光に関する知識・技術・センスを兼ね備えた地域のリーダーとなりうる人材を養成します。

#### ポイント 1

#### 地域社会システム学科の科目のなかでも、観光系の科目を重点的に履修！

観光政策科学特別コースの学生は観光系の科目を重点的に学びます。観光系の科目は、観光政策科学に関する入門科目のほか、地域資源の保全・観光活用、観光ビジネス・経営、観光政策など多岐にわたる専門科目が開講されています。また、行政・産業の第一線で活躍する外部講師による特別講義も開講されています。



#### ポイント 2

#### 履修を観光政策科学特別コースの学生に限った学外での実習授業を開講！

観光先進地域、観光関連企業などにおける実習授業は観光政策科学特別コースの学生のみが履修可能!毎年、複数科目が開講されます。学内の座学で学んだ基礎理論を実際の現場における取組に関する理解と重ねることで学びを深めていきます。実習に毎年参加することで、自らの知識・経験の深まりに応じて理解できる事象の幅が広がっていくことも、学びの自信と喜びにつながっていきます。



これまでの  
実習先(一部)

長崎(長崎市内・佐世保・波佐見・軍艦島)  
佐賀(有田)  
伊勢志摩  
妻籠宿  
下呂温泉  
伊豆半島(伊東・熱海)

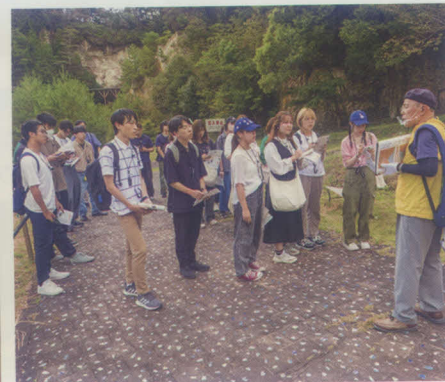
瀬戸内国際芸術祭(直島・豊島)  
飛騨地方(飛騨高山・古川・白川郷・五箇山)  
高尾山及び周辺ワーケーション施設  
箱根(箱根DMO)  
迎賓館赤坂離宮  
首都圏外郭放水路(インフラツーリズム)

都市インバウンド観光資源  
オープンファクトリー  
MICE 関連施設  
大手旅行会社(本社)  
東京国際クルーズターミナル  
観光見本市(ツーリズムEXPO ジャパン)

#### ポイント 3

#### 観光の最新動向を常にキャッチ！ 観光系のゼミにも優先配属！

観光政策科学特別コースの学生を対象にしたメーリングリストを通じて観光に関する最新情報や学内のプロジェクトに関する情報などが共有されます。こうした情報をもとに、さまざまな活動に参加し、学びを深めることができます。また、3年進級時に地域社会システム学科全体でおこなわれるゼミ選考では、本人が観光系のゼミを志望した場合、評価が同等であれば優先して観光系のゼミに配属されます。<sup>※1</sup>



※1: 観光政策科学特別コース学生が地域社会システム学科の他分野のゼミを選択することも可能です。



# 地域活性化人材育成～SPARC～教育プログラム

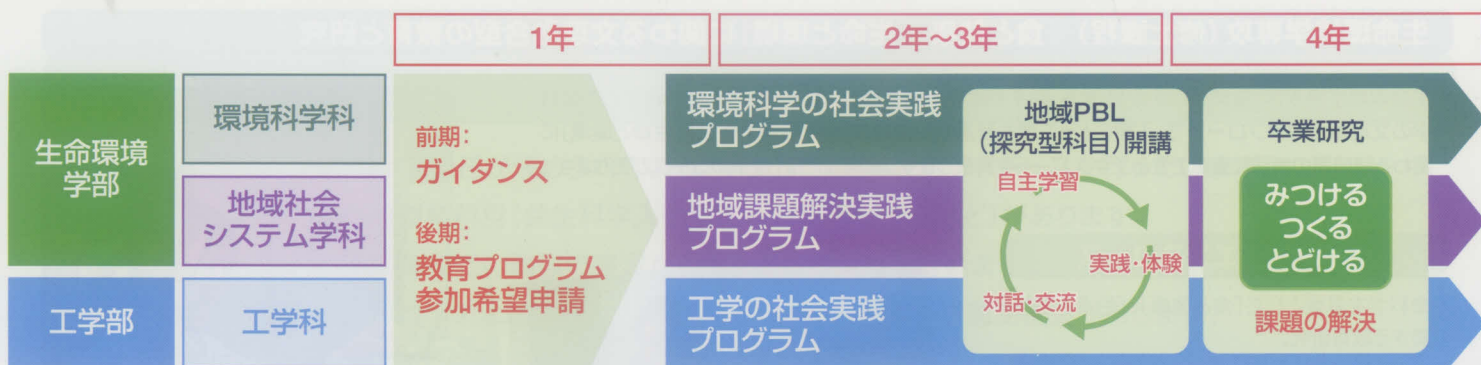
## 地域に新しい風を、みつける! つくる! とどける!

SPARCとは“Supereminent Program for Activating Regional Collaboration”の総称で、地域社会と大学間の連携を通じて新しい価値を創造し、分野横断的に課題解決に挑む地域人の育成を目的とした事業です。山梨大学のSPARC事業における教育プログラムは、山梨県立大学とも連携し、地域と密接にかかわりながら

- ✓現状を分析し、目的や課題を**明らかにする!**
- ✓既存の枠組みにとらわれず、これまでにないサービスやアイデアを**つくりだす!**
- ✓サービスやアイデアを、最適な方法で社会に向けて**発信する!**

これらの「価値を**みつける! つくる! とどける!**」を、山梨まるごと題材に実践するプログラムです。

### SPARC教育プログラムの流れ



### 環境科学の社会実践プログラム

#### 人と自然のつながりにおける新しい価値の想像から創造へ

本プログラムでは、地域課題に当事者として向き合う動機を育み、地域の声に耳を傾けながら、環境破壊や自然災害による恩恵の損失を減らす行動力を培います。あわせて、風土に根ざした持続的な農林水産業を提案し、住空間を創出するなど、自然と社会の価値を再発見、再構築、あるいは新たに創造する人を育てます。

#### こんな望みをプログラムで実現

- 自然が好き、自然を守りたい
- 豊かな自然と暮らしの両立を実現させたい
- 環境にかかわる新しい仕事をつくりたい

#### 魅力的な地域関連科目

- ◎富士山学 ◎地域共生デザイン
- ◎環境科学地域PBL実習(探究型科目)ほか

#### 活躍できる分野・進路

- 公務員 ○環境ビジネス
- 環境コンサルタント ○環境系製造業など



### 地域課題解決実践プログラム

#### 自由な思考で課題を解決し新たな地域社会を創生する

本プログラムでは、先を見通しにくい現代において必須の、自由な思考の持続を支える『教養』と自分たちの社会を『俯瞰する力』を養います。その上で、地域づくりやソーシャルビジネスなど、さまざまな現場での『学び』と『対話』と『実践』の絶えざる往復を通して、地方創生の新たな姿を探る人を育てます。

#### こんな望みをプログラムで実現

- 物事に主体的に取り組む力を身につけたい
- 地域おこしや、まちづくりに関心がある
- 地域課題の解決に向けて、新しい事業を起こしたい

#### 魅力的な地域関連科目

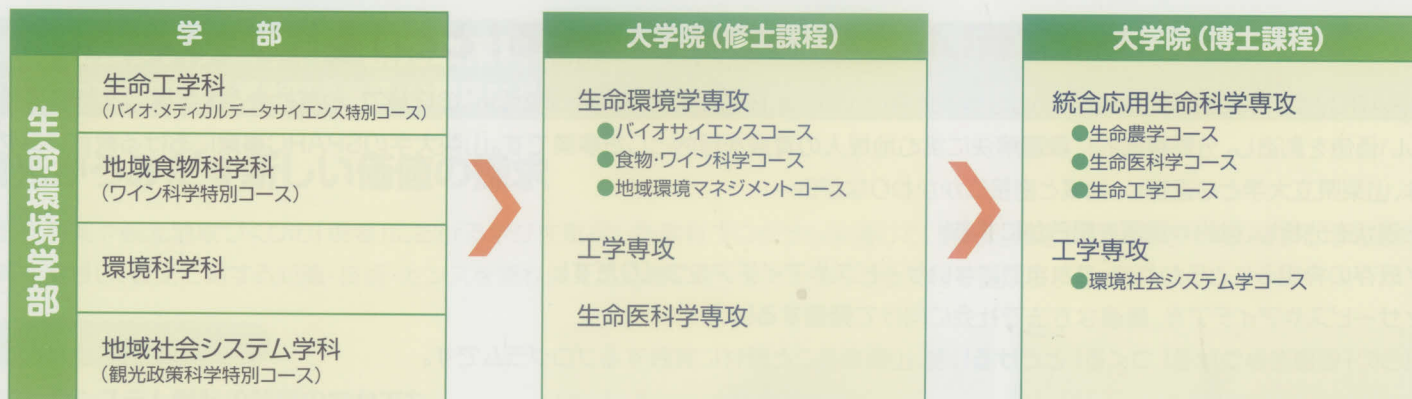
- ◎社会科学入門 ◎地域共生デザイン
- ◎地域PBL演習(探究型科目)ほか

#### 活躍できる分野・進路

- 地方公務員 ○金融機関
- 地域コンサルタント ○マスコミなど



# 大学院（修士課程・博士課程）



## 生命環境学専攻（修士課程）『食と健康』『生命と環境』に関わる文理融合型の教育と研究

●生命環境学専攻は「生命・食・環境・経営」に関する教育研究を目的としています。自然科学と社会科学の文理融合的アプローチで、人類にとって最も普遍的で重要な「食と健康」および「生命と環境」に関わる諸問題の解決に貢献できるエキスパートを育成します。本専攻には、以下のコースがあります。

### バイオサイエンスコース

生命科学を基盤とした「食と健康」、「生命と環境」に関する教育研究。

### 食物・ワイン科学コース

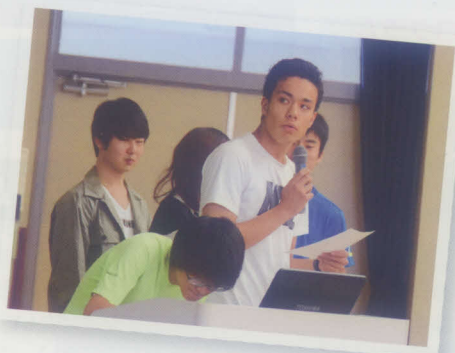
ワインをモデルとしながら科学的に探求し、食品産業界を原料生産、加工・販売、安全から経営まで多面的に見渡せる教育研究。

### 地域環境マネジメントコース

環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関する教育研究。

●「食と健康」および「生命と環境」に関わる課題を、社会・経済・行政システムとの関わりでとらえ、自然科学の知識で理解・分析し、技術革新や政策によって解決する意欲をもつ人を求めます。

●所属専攻やコースに応じて、特別教育プログラム（発生工学技術開発・実践、流域環境科学、先端脳科学、生命工学ナノバイオテクノロジー、山岳科学）に参加することができます（2024年度時点）。



## 統合応用生命科学専攻（博士課程） 医工農の分野横断的な教育と研究

●統合応用生命科学専攻（博士課程）は2018年4月に新設されました。修士課程と同様に医工に農学を加え、医工農の分野横断的な教育を展開いたします。生命環境学部、生命環境学専攻（修士課程）に接続する専攻であり、山梨県で初めての農学系を有した大学院博士課程で、ワインや発生工学など本学の強みを活かした教育を展開し、地域に貢献でき、グローバルに活躍できる人材を養成します。本専攻には以下のコースがあります。

### 生命農学コース

発酵・食品に関連する複数の学問分野の高度な知識と技術を修得し、食と健康及び環境に関連する産業分野で活躍できる人材を養成。

### 生命医科学コース

免疫や神経科学等の高度な専門知識と技術を身に付け、コメディカルなど医療機関等で活躍できる人材を養成。

### 生命工学コース

発生工学や周辺の学問分野を含む高度な生命工学の技術と知識を修得し、生殖補助医療、再生医療やバイオ関連産業で活躍できる人材を養成。

# キャンパスライフ

進路!



健康!



食事!

生活!



## 勉学サポート

- 各学科では、学年ごとにクラス担任が決まられていて、学び方・生活などのアドバイスを行っています。
- 大学での学び方についての授業科目(共生科学入門や生命環境基礎ゼミなど)があります。
- 数学・理科などの科目では、高校での勉強の復習から始まる基礎教育を行います。
- グループ学習・実習ができ、数学および物理などの個別指導を受けられる学習支援室があります。
- 附属図書館には、静かな空間で勉強に集中できる「サイレントエリア」、グループでディスカッションできる「ラーニング・コモンズ」があります。また、開館時間以外および休館日に館内閲覧・館内資料の文献検索等が利用できる特別使用(申請が必要)もできます。

## その他のサポート

- 広報活動などを通じて、保護者・出身高校とのつながりを大事にしています。保護者の方には、每学期成績表をお送りしています。
- キャンパス全域に高速無線LAN設備があり、インターネットが自由に使えます。
- キャリアセンターでは、就職に関する様々な情報提供や各種セミナー・ガイダンス・企業説明会の実施、キャリア発達を支援する個別相談を実施しています。(https://www.career.yamanashi.ac.jp/)
- 保健管理センターでは、健康診断、医師による診察、保健師等による健康相談・保健相談、けが等の応急処置などを行っています。(https://health.yamanashi.ac.jp/)
- 学生サポートセンターでは、悩みごとや困りごとに関する相談やカウンセリング、支援を必要とする学生の修学支援を行っています。(https://www.sp-needs.yamanashi.ac.jp/)
- 国際化推進センターでは、留学生のための相談室で修学・生活上の相談に応じるほか、海外留学支援など、留学生の受入・派遣に関する教育や支援を行っています。(https://www.ciee.yamanashi.ac.jp/)
- 大学ホームページ「キャンパスライフ」に学生寮、奨学金の情報が 있습니다。(https://www.yamanashi.ac.jp/campuslife/)

様々な相談に応じられるよう連携し、  
学生相談の体制を整えています。



# 関連施設

## 学部附属施設



### 附属農場

甲府市小曲町に設置された附属農場は総面積約2.6haの施設で、場内には管理棟(575㎡)、ガラス温室(480㎡)、堆肥舎、人工気象室、植物工場などの施設があります。山梨県の特産果樹であるブドウ・桃に加え、様々な農作物を作付けし、教育・研究に利用しています。また、全学科1年次生がこの農場で「生物資源実習」を受講し農学の第一歩を踏み出します。

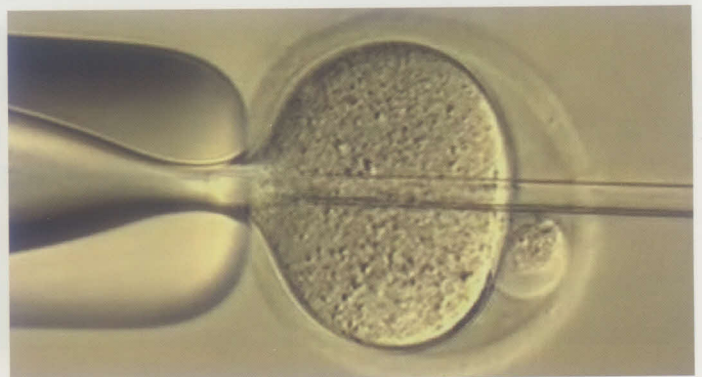
## 学部教育に協力する研究センター

山梨大学にはいくつかの研究センターがありますが、そのうち発生工学研究センター・高度生殖補助技術センター・ワイン科学研究センター・国際流域環境研究センターの教員が生命環境学部の教育に参加します。これにより、最先端の研究の成果が教育の中に取り入れられます。



### 発生工学研究センター

卵子や精子、体細胞の核を自由自在に操れるマイクロマニピュレーターを14セット備えた世界トップクラスの研究施設です。クローン動物やキメラ動物を作成することで、生命現象の解明に貢献するだけでなく、バイオテクノロジーによる食糧問題の解決や一流研究者の養成に取り組んでいます。



### 高度生殖補助技術センター

不妊治療に携わる専門職である胚培養士を育成する教育研究センター(2022年4月設置)です。生命工学科・発生工学研究センターならびに学内外の不妊治療施設と協力して、マイクロマニピュレーターを用いる顕微授精や胚凍結等の生殖補助医療技術の習得を含む生殖補助医療(不妊治療)分野の教育研究を行います。



### ワイン科学研究センター

日本をリードするワイン科学を専門に研究するセンターです。60年以上の歴史があり、日本のワイン科学の教育と研究の拠点になっています。地域食物科学科の「ワイン科学特別コース」では、ワイン造りに情熱を抱き、ワイン業界をリードできる高度な専門知識と技術を持つ人材を育てます。



### 国際流域環境研究センター

水資源の枯渇、水災害、水環境の悪化、水に起因する病気など水にかかわる問題に対応するための研究を行っているセンターです。アジアを主として、ヨーロッパ、オーストラリア、アメリカやアフリカの大学・研究機関と連携し、国際的な研究と教育(流域環境科学特別教育プログラム等)を行っています。

# 在学生からのメッセージ

## 生命工学科



私は祖父の死をきっかけに、生命に関わる職に就きたいと考えるようになりました。山梨大学では最先端の生命工学や技術を学べると知り進学を決めました。国立大学なので教授との距離も非常に近く、しっかり「学ぶ」ことができます。現在は日々仲間と研究に没頭、サークル活動では仲間と体を動かし学生生活を満喫しています。  
(3年/静岡県)

私は再生医療や生殖補助技術に興味があり入学を決めました。熱心な指導をしてくださる先生が多いため、専門的で深い知識を得ることができます。全国から集まった仲間と楽しく勉強できます。大学は社会に出る前の最後の期間だと思っています。山梨大学で自身を成長させ、将来の夢に向かって頑張りたいです。  
(3年/山梨県)



## 地域食物科学科

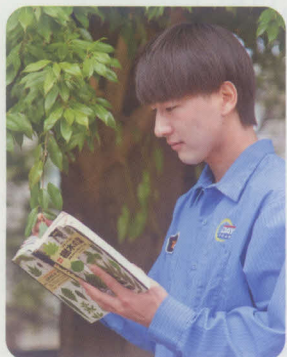


将来、食品に携わる仕事に就きたいと思い、食品や栄養について学べる本学科を選びました。大学では一次産業から六次産業まで幅広い知識を得られることや、実際に農場に出向き、野菜やモモ、ブドウなどの果実を栽培するなど実習も豊富なところが魅力的です。学んでいくうちにお酒などの発酵食品にも興味を沸き、ますます食の面白さを感じるようになりました。  
(4年/山梨県)



ワインに触れたことがないまま勢いで入学しましたが、ブドウ栽培、ワイン製造、官能評価等の授業でワインを学び、実際に自分でも飲んでいくとワインの魅力に引き込まれました。ワインだけでなく管理栄養学や遺伝学、微生物学など多角的な分野を学ぶことができますので、自分の興味を知り突き詰められる素敵な大学です。  
(4年[ワイン科学特別コース]/岐阜県)

環境科学科では大学内で学ぶだけでなく、森林生態学実習や河川実習などを通じてフィールドに向かい、調査や実験を行うことができます。また、学生数が少なく学生同士の距離が近い点も魅力です。サークル活動では、私は大学祭実行委員会に所属し、大学祭の運営に携わっていますが、他にも魅力的なサークルがいくつもあります。  
(3年/静岡県)



環境科学科では大気・水・森林・土壌・生物など、幅広い分野の授業や実習を受けることができます。そのため、単に「自然が好き」という理由でこの学科を選んだ私でも特に興味のある分野を見つけることができました。大学では自由な時間が多く、自分で行動の選択ができるため、やりたいことを突き詰めることができます。  
(3年/静岡県)

## 環境科学科



学部選びに迷っていた時に、政治や法律、経済や経営など社会科学系を中心に幅広く学べるこの学科を知り、受験しようと決めました。さまざまな学問分野の基礎を学んだうえで、自分の興味や関心に応じて学びを深められます。3年次から配属されるゼミでは、卒業研究のほかに、自治体との連携事業などにも取り組んでいます。  
(4年/山梨県)

地域社会システム学科には、観光地に足を運ぶ実習があります。講義で学習したことを活かして、観光プランやまちづくりのプランを考えることでより身につきました。この実習は1年に1回ずつあり、年々プランの精度や学習内容が上がっていくのが見えるのも自分自身の成長が感じられて嬉しかったです。  
(4年[観光政策科学特別コース]/東京都)



## 地域社会システム学科



## 2022・2023年度進路状況

### 生命環境学部

学 科	卒業年度	卒業者	進 学	就 職	就職先
生命工学科	2023	39	33	1	明治安田生命保険相互会社
	2022	34	26	4	シャトレーゼ、岡野薬品株式会社、株式会社静鉄ストア、新日本科学PPD
地域食物科学科	2023	36	14	18	山梨県庁、静岡県庁、アイングループ、イオンフードサプライ株式会社、カナカ食品株式会社、くらむぼんワイン、株式会社湖池屋、株式会社米五、シャトレーゼベルフォーレワイナリー、東亜薬品株式会社、中村屋、一般財団法人日本食品分析センター、はごろもフーズ株式会社、株式会社林原、富士伊豆農業協同組合、富士食品工業株式会社、山梨厚生会
	2022	37	15	19	山梨県庁、日立ハイシステム21、新潟県庁、滝沢ハム株式会社、株式会社ヤマザキ、愛媛県庁、ニコニコのり株式会社、甲斐セミナー、サントリー株式会社、株式会社いちやま、国土交通省北海道開発局、栃木県庁、株式会社農業生産法人葡萄専心、ブリヂストンソフトウェア株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、日世株式会社
環境科学科	2023	29	9	17	林野庁、国土交通省中部地方整備局、長野県庁、甲州市役所、湖西市役所、富士市役所、ヴェオリア・ジェネックス株式会社、株式会社キャタラー、協同乳業株式会社、株式会社ジール、太平洋セメント、中部電力パワーグリッド株式会社、日研トータルソーシング株式会社、日本ホワイトファーム新潟株式会社、株式会社山梨県環境科学検査センター、レイズネクス株式会社
	2022	29	8	19	林野庁、山梨県庁、神奈川県警、静岡県警、甲州市役所(2名)、松川町役場、セイコーエプソン株式会社、山崎製パン株式会社、鈴与株式会社、日本水工コンサルタント、株式会社エム・テーシー、株式会社遠鉄ストア、株式会社蓬萊、株式会社サンライン、エスタリア・エヘニア株式会社、株式会社ネクストビート、日本ノーベル株式会社、株式会社ミダックホールディングス
地域社会システム学科	2023	44	2	37	山梨大学、国家公務員、山梨県庁、甲州市役所、中央市役所、富士見町役場、株式会社DEPOT、株式会社KSK、株式会社YBS T&L、株式会社YSKe-com、株式会社アスカプランニング、株式会社飯田鉄工、株式会社エスブル、コイズミ照明株式会社、甲府信用金庫、株式会社甲府明電舎、ジツ株式会社、株式会社セキノ興産、テルモ株式会社、東京セキスイハイム、東武トップアース株式会社、株式会社トリケミカル研究所、株式会社日本オープンシステムズ、日本政策金融公庫、日本駐車場開発株式会社、株式会社日本ネットワークサービス、株式会社電通マクロミルサイト、株式会社ファミリーマート、富士急行株式会社、株式会社プラスアルファ・コンサルティング、ベネフィット税理士法人、株式会社ホワイトボード、山梨中央銀行、株式会社リンク
	2022	48	0	45	山梨大学(2名)、山梨県庁(3名)、甲州市役所、甲斐市役所、北杜市役所、山梨県警、山梨信用保証協会、諏訪市役所、松本市役所、生活協同組合ユーコープ、FANTASISTA、オギノ、静岡銀行、武蔵野銀行、原田、NTTデータグローバルソリューションズ、日水物流、ベシシア、ヤフー、大和ハウスリアルティマネジメント、中日本高速道路、東海東京フィナンシャル・ホールディングス、NIPPO、ジャストシステム、矢崎総業、オープンアップシステム、明電システムソリューション、総合警備保障、ヨドバシカメラ、インフォテック・サービス、かんぽ生命保険、TISソリューションリンク、jinjer、ユニバーサルコンピューター、鈴峯、PayPay銀行、JTB、スターツ出版、ヒト・コミュニケーションズ、吉田金属工業、西日本高速道路、日産フィナンシャルサービス

### 生命環境学専攻(修士課程)

コース	修了年度	修了者	進 学	就 職	就職先
バイオサイエンスコース	2023	25	5	19	長野県庁、浅田レディースクリニック、JAPAN TESTING LABORATORIES株式会社、アヲハタ株式会社、株式会社かね貞、このはな産婦人科、小林製薬株式会社、サイネオス・ヘルス・クリニカル、住友ファーマ株式会社、タマノイ酢株式会社、中外製薬工業株式会社、ニプロ株式会社、日本コルマー株式会社、株式会社不二家、株式会社武蔵野ホールディングス、株式会社メディサイエンスプランニング、リプロダクションクリニック東京
	2022	26	3	20	警察庁、TANAKAホールディングス、浅田レディースクリニック、伊藤ハム、一般財団法人上越環境科学センター、一丸ファルコス株式会社、オリエンタル酵母工業株式会社、シミックファーマサイエンス、ニプロ株式会社、バレクセルインターナショナル株式会社、株式会社ニースウェル、株式会社高津製作所、株式会社昭和真空、株式会社中村屋、株式会社あわしま堂、株式会社ヴィンクス、株式会社タウンズ、株式会社テクノプロテクノロR&D社、正和製菓
食物・ワイン科学コース	2023	15	0	14	AREホールディングス株式会社、オリエンタル酵母工業株式会社、合同酒類株式会社、サントリー株式会社、正田醤油株式会社、辰馬本家酒造株式会社、株式会社ツムラ、トール・ワイナリー、マーズワイン株式会社、株式会社ミツハシ、盛田株式会社、株式会社ヤクルト本社、ヤマサ醤油株式会社
	2022	14	0	14	宝酒株式会社、ドーバー洋貿易株式会社、日新製糖株式会社、サッポロビール株式会社、みたけ食品工業株式会社、アヲハタ株式会社、三栄源エフ・エフ・アイ株式会社、宝醤油株式会社、株式会社ミヨシ、太田油脂株式会社、株式会社Domaine KOSEI、久原本家グループ、株式会社テクノプロ、独立行政法人製品評価技術基盤機構、丸紅ITソリューションズ
地域環境マネジメントコース	2023	11	1	8	林野庁、公立学校教員、AZAPAエンジニアリング株式会社、イオン保険サービス株式会社、内堀醸造株式会社、株式会社オハラ、キムラユニティー株式会社、株式会社土木管理総合試験所、一般社団法人リモート・センシング技術センター
	2022	8	1	7	甲斐市役所、YBS(株式会社 山梨放送)、ビジュアルアンドエコー・ジャパン、株式会社やかん、丸紅ITソリューションズ、東芝キヤリア株式会社 富士事業所

### 工学専攻(修士課程)

コース	修了年度	修了者	進 学	就 職	就職先
流域環境科学特別教育プログラム※	2023	5	0	5	朝日航洋株式会社、アジア航測株式会社、株式会社建設技術研究所、長野オリンパス株式会社、株式会社長野技研
	2022	2	0	2	日本工営都市空間株式会社、株式会社ニュージェック

※流域環境科学特別教育プログラムの進路状況については、生命環境学部卒業生の進路状況のみ記載

新宿から甲府まで電車で最速85分。意外と近いんです!!

静岡駅から134分。富士駅から106分。岡谷駅から48分。



**9:00授業開始!!**  
 住居費をかけず東京から通学できます。  
 【特急】八王子07:29発→甲府08:27着  
 【普通】八王子06:57発→高尾07:07発→甲府08:38着



**電車・バス**

新宿⇒甲府駅 都心からだと、最速85分。特急なら乗り換えなし。

- JR中央線 特急「あずさ」または「かいじ」で最速85分
- 新宿駅南口「バスタ新宿」より最速119分

名古屋⇒甲府駅 名古屋からでも、特急に乗ればおよそ3時間。

- ①JR中央線(塩尻駅経由)/塩尻で特急「しなの」から特急「あずさ」に乗り換え
- ②東海道新幹線・JR身延線(静岡駅経由)/静岡で新幹線「ひかり」から特急「ふじかわ」に乗り換え
- JR名古屋駅前バスセンターより約240分

甲府駅⇒甲府キャンパス 甲府駅から、信玄公ゆかりの武田神社を目指して歩くこと15分。

- 甲府駅北口2番バス乗り場より「武田神社または積翠寺」行き約5分、「山梨大学」下車
- 甲府駅北口より武田通りを北上、徒歩約15分

**車**

**東京⇒甲府キャンパス**

首都高新宿線から高井戸IC経由で中央自動車道:高井戸IC~甲府昭和IC(高井戸=甲府昭和間約1時間20分、113.2km)で下りて、一般道を北東の方角へ。国道20号線またはアルプス通り経由で約20分

**名古屋⇒甲府キャンパス**

東名高速:名古屋IC~小牧JCT~中央自動車道:甲府昭和IC(名古屋=甲府昭和間約3時間、245.4km)で下りて、一般道を北東の方角へ。国道20号線またはアルプス通り経由で約20分

UNIVERSITY OF YAMANASHI - FACULTY OF LIFE AND ENVIRONMENTAL SCIENCES



TEL.055-220-8803  
 〒400-8510 山梨県甲府市武田4丁目4-37

<https://www.les.yamanashi.ac.jp/>



スマートフォン用

